

ID No.	133
研究課題名	成人 T 細胞白血病リンパ腫(ATL)における同種造血幹細胞移植後の微小残存病変および免疫機能モニタリング試験
研究代表者	福田 隆浩（国立がん研究センター中央病院・科長）
研究組織	
受入教員	渡辺 信和（東京大学医科学研究所・特任准教授）
研究分担者	田野崎 隆二（国立がん研究センター中央病院・科長） 井上 明威（国立がん研究センター中央病院・がん専門修練医） 平家 勇司（国立がん研究センター中央病院・ユニット長） 内丸 薫（東京大学医科学研究所・准教授）

研究報告書

「ATL における同種造血幹細胞移植後の微小残存病変および免疫機能モニタリング試験」は、平成 25 年 6 月より症例登録を開始し、平成 26 年 10 月に目標 25 例の登録を完了し、経過観察中である。東京大学医科学研究所・臨床検体専用 FACS コアラボで開発された 12 色の Multicolor FACS を用いた微小残存病変や移植後免疫回復機能のモニタリングが本研究の重要なテーマであり、研究代表者が所属する国立がん研究センターと東京大学医科学研究所との共同研究拠点事業の趣旨に合致するものである。本研究では、急性型およびリンパ腫型の ATL に対する同種移植症例を対象とし、移植後 2, 4, 6, 8 週および 3, 4, 6 ヶ月の時点で Multicolor FACS による検査に加えて、HTLV-1 プロウイルス定量検査や HTLV-1 Tax に対する CTL 測定を行う。平成 26 年度中に最終登録症例の 6 カ月後検査が完了する予定であり、平成 27 年度に解析集計・論文化を行う予定である。

